

# 平成 26 年度第 3 回北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会会議記録要旨

## 1 開催日時

平成 26 年 12 月 19 日（金）15：00～16：30

## 2 開催場所

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地 かでる 2・7（8 階）  
北海道立生涯学習推進センター創作実習室

## 3 議事

- (1) 道民カレッジ受講システム・学習方法及び単位認定等の評価方法称号等の授与方法（小中学生の取扱い）について
- (2) 道民カレッジ手帳（ジュニア）について
- (3) 「ほっかいどう学」大学インターネット講座について

## 4 配布資料

- ・子ども向け生涯学習システム（県民カレッジ等）の状況調査結果について
- ・道民カレッジ（ジュニアコース）受講システム及び称号授与について
- ・「道民カレッジ手帳」のジュニアコース対象者の取り扱いについて
- ・「ほっかいどう学」大学インターネット講座について

## 5 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会委員（部会長、以下委員五十音順）  
三上部会長、町田委員、西澤委員
- 北海道立生涯学習推進センター職員（運営協議会事務局）  
毛利所長、柴田主幹、天山主幹、澤田主査、柴野主査、會田主査、本田主査、中山主任

## 6 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

（以下、発言順の掲載 ○委員 ●事務局）

### (1) 議事

#### ①道民カレッジ受講システム・学習方法及び単位認定等の評価方法称号等の授与方法（小中学生の取扱い）について

- （資料 1、2 により説明）
- 今後の予定について確認ですが、今年度中に専門部会はもう一度開催されるのでしょうか。
- 専門部会はもう一度開催させていただきます。今回は、2 月末から 3 月上旬をめどに運営協議会と同じ日に開催する予定です。御協議いただきました内容をもとに、来年度の道民カレッジ業務に関する委託業務処理内容を作成し、業者の募集を行っていきますので、本議題については、今回の専門部会で整理をつけていただきたいと思います。
- 資料 1 の受講システムの対象ですが、「連携講座（ジュニアコース）の受講対象は小・中学生とする。」とありますが、この標記でいいのでしょうか。
- 「道民カレッジ（ジュニアコース）の受講対象は小・中学生とする。」と訂正します。
- 称号の授与について、小学 3 年から中学 3 年までの 7 年間で想定し、各称号取得に必要な単位数を算出されたようですが、最短で何年間で称号を取ることができるのでしょうか。
- 道立青少年体験活動支援施設の主催事業に積極的に参加している児童生徒の参加率を参考に 2 年ぐらいで称号を取得できるのではないかと想定しました。一方、施設から離れた地域に

居住している児童生徒については、なかなか参加できないことも考え、7年間を想定しました。

- 確認ですが、指定講座の単位数は、2泊3日で2講座、8単位ということですか。
- その通りです。
- 連携講座ジュニアコースの専門単位については、市町村教育委員会主催の講座が中心となってくるかと思いますが、各教育委員会との連携については、どのようになっていますか。
- 今年度当初から、道民カレッジに小中学生に入学してもらおうという取組を精力的に行ってまいりました。そのためには、小中学生対象の連携講座がないといけませんので、教育局から各市町村教育委員会へ小中学生を対象とした事業については、連携講座に登録していただくようお願いをしてきたところです。
- 今年度については、現在のところ小中学生向けの連携講座は、約240講座が登録されています。引き続き、連携講座への登録をお願いしていきたいと考えています。
- これまである講座をあわせて240講座ということですか。
- 親子対象の事業のほかに小中学生のみが対象の事業も含めています。
- 小中学生対象の連携講座の実施地域のバランスはいかがですか。
- 240講座のうち約100講座が道立青少年体験活動支援施設の事業、約140が市町村教育委員会の事業になっています。全14管内すべての地域で小中学生対象の連携講座に登録していただいているという状況ではありません。  
一般対象の連携講座に登録していただいている市町村教育委員会では、小中学生向け連携講座についても登録していただいているケースが多くあります。
- 一般対象の連携講座については、管内によっては積極的に登録している地域があると思いますが、地域により格差があるかと感じています。事務局も御苦労されていることと思います。講座数が増えると、興味関心に応じて、子どもたちにとって、選択肢が増えるかと思っています。
- 聞き取り調査を行った佐賀県の担当者によりますと、市町村教育委員会、公民館職員に子ども向け県民カレッジの事業趣旨について理解してもらえないところがあると聞いています。道民カレッジにおきましては、周知の徹底に努め、連携講座に登録申請いただけるように働きかけを強めていきたいと考えています。
- 道民カレッジは、誰でも登録できます。これまでも小中学生も登録できましたが、今年度から小中学生、高校生への道民カレッジへの入学をさらに呼びかけをしてまいりました。例年の入学者は一般の方を中心に500名前後となっていますが、今年は1000名を越えており、その半数が小中高校生となっています。小中高校生の入学を促進しましても、受講できる連携講座を増やすために、さらに周知していくことが必要と考えています。
- これまでの道民カレッジのパンフレットの中にジュニアコースが含まれるのですか、別にPRすることになるのですか。
- 今年度については、別にチラシを作成してPRを行いました。来年度は、統一したものの中で、さらに広くPRしていく予定です。

## ② 道民カレッジ手帳（ジュニア）について

- （資料3により説明）
- 児童生徒向けの別冊しおりを一般の手帳に折り込んで使用させるのであれば、紛失してしまう可能性があるのではないのでしょうか。
- 手帳のビニールカバーに挟み込むようにすると紛失する可能性が低くなるかと思っています。
- 同一ページ内で2回目以降に使用する漢字にはルビは振らないとありますが、確かに同一ページ内の漢字全てにルビを振るとしつこく感じます。最近の子どもたちは、漢字が読めないと言われることがあります。子どもたちが不安なく学習できるような手立てがあれば良いかと思っています。
- 道教委が主催の事業でありますので、学習指導要領にも準拠し、教科書同様に同一ページ内

で2回目以降に使用する漢字にはルビは振らないことで統一していきたいと考えます。

- 初めから順番に読んでいくのであれば、同一ページ内で2回目以降に使用する漢字にはルビは振らない対応でも問題ないかと思えます。このしおりの場合は、最初から読むとは限りません。未習漢字にルビを振ることは、小中学生でも参加しやすくなるというメッセージになりますので、丁寧に対応していただきたいと思えます。
- 来年度から配布する手帳に新しくジュニアコースの単位スタンプを押印するページを作成するとのことですが、一般の方も使用することになるのですか。
- 現在の予備ページはそのまま残し、一般の方もジュニアコースの方もページが不足した場合に使用することになります。
- 町田委員がお持ちになっているカバーがグレーの「道民カレッジ手帳」はもう使用しないのですか。
- 現在、配布している手帳は、カバーが透明なものです。一般では称号が授与された後、手帳の色が変わります。以前のカバーがグレーの「道民カレッジ手帳」をお持ちの方は引き続き、御使用いただけます。

### ③「ほっかいどう学」大学インターネット講座について

- (資料4により説明)
- インターネットでの配信になり、好きな時間に、何度も視聴することができて、非常に楽しいです。興味深い内容も多く、何度も視聴しています。画面もきれいで見やすく、講義動画の横の資料動画もわかりやすく、講義内容も頭に入り、理解しやすいです。講義のテーマは、各大学で決めるのでしょうか。
- 「ほっかいどう学」の7つの領域に沿った内容で講義のテーマ設定をしていただくよう各大学へ依頼しています。
- 今年、余市町の文化遺産をバスで巡る連携講座に参加しました。そのような連携講座に参加するなど、北海道の歴史・文化に関するテーマの講座があると学習者の一人として嬉しいです。
- ぜひ、学習したい内容等についてアンケートに御記入いただくと、学習者の方の声として、反映させることができるかと思えます。
- アンケートの質問項目に学習してみたいテーマ等を書く項目はあるのでしょうか。
- アンケート用紙の自由記述の部分に書いていただくとよろしいかと思えます。
- 質問項目を設けて学習者の方が聞いてみたいテーマを調査してみることもできると思えます。大学に勤めている立場としては、このようなテーマの講座を聞きたいという希望があった場合、そのテーマに沿った内容で話せる研究者がその大学にいるかなどの兼ね合いもあります。以前、大学放送講座にかかわって、学内のコーディネートを担当したことがあります。このような学習をしたいと希望される方が多くいらっしゃるなどの何か手がかりがあったほうが学内で講師を選定するにも助かります。アンケートの希望がすぐに講座に反映するかどうかは分かりませんが、学習者のニーズを把握することは大切なのではないのでしょうか。
- 来年度からすぐには実行できるとお約束はできませんが、学習者の方の希望を講座テーマに反映できるよう実行委員会等へ伝えていくことはできると思えます。
- ほっかいどう学の学習領域はいくつありましたか。
- 7つあります。それらについては、ホームページ上で御紹介してあります。
- ある領域に偏ることなく、7つの領域を網羅していくことが望ましいかと思えます。
- 札幌市生涯学習センターでもたくさん事業を実施しています。事業参加者の方にアンケートを実施していますが、その年度に実施できなくても、事業参加者の方のニーズを把握し、次年度の事業企画の参考にしています。
- 大学インターネット講座のアンケートでは、学習したい内容等の要望については、自由記述欄に記入してもらおう形になってはいますが、どのような聞き方をすると次年度の事業企画に活か

しやすくなるのでしょうか。

- アンケートに回答の方が答えやすいように漠然とではなく、具体的な説明や質問項目がいいと思います。自由記述ではなく回答を丸で囲むなどの回答の仕方がよいのではないのでしょうか。
- 今後、ほっかいどう学の7つの領域をまんべんなく教材開発する予定になっていますので、どのテーマを優先的にするか、どの年代の方がどのようなテーマを学習したいかという要望からテーマを選んでいただくこともできるのではないのでしょうか。
- 道民の学習ニーズが把握できると、このテーマにあった講座が実施できるかどうかわかりませんが、参加大学へ要望としてお話しすることもできるのでないのでしょうか。
- 道民の貴重な声を出来るだけ取り入れていく形で進めていただきたいと思います。
- DVDは、講座が始まる前に音楽が流れていますが、インターネットではありません。何か理由はあるのでしょうか。音楽が流れると雰囲気良く感じましたので、共通のテーマ音楽のようなものがあると良いのではないのでしょうか。
- DVD制作とインターネット配信を行った業者が違うためです。実行委員会に伝え、次年度の検討材料にしたいと思います。
- 講座の活用で講座担当講師による出前講座について説明がありましたが、費用はどうなるのでしょうか。
- 実行委員会事務局を担当している公益財団法人北海道生涯学習協会の主催事業として実施しますので、北海道生涯学習協会が費用を負担します。
- 会場の確保や参加者への周知は出前講座の申込み団体が行うこととなりますが、講師の旅費等については、北海道生涯学習協会が負担すると聞いています。
- 北海道生涯学習協会の事業ですので、詳しい予算等については承知しておりませんが、予算の範囲内で実施するということが前提になるかと思います。
- 主催者側は受講料を取ってもいいのでしょうか。
- 北海道生涯学習協会の主催事業となり、出前講座の申込み団体は共催となりますので、受講料は徴収しません。また、会場費の徴収については、北海道生涯学習協会との協議になるかと思いますが、出前講座の申込み団体は、教育委員会が中心となるかと思いますが、所管施設等を使用すると会場使用料はかからないかと思います。
- 本日は欠席の委員が多くいますが、それぞれのお立場でお知恵をお持ちだと思いますので、色々とお意見やアドバイスをいただければと思います。

ほかに御意見がなければ、以上を持ちまして、本日の議事を終了いたします。

## 7 欠席された委員からの御意見等（第3回専門部会終了後、意見を伺った。）

### ①道民カレッジ受講システム・学習方法及び単位認定等の評価方法称号等の授与方法（小中学生の取扱い）について

- 小中学生を対象としていることは大変良いことなので、北海道教育大学として何か一緒にできないかと考えました。小中学生等を対象として、札幌校では「あいの里実験教室」、札幌市生涯学習センターと共催で文系サークルが中心となった「絵本づくり教室」、岩見沢校では、「スポーツ教室」等を数多く実施しています。
- 小中学生を対象としたものは、道民カレッジの「ほっかいどう学コース」、「教養コース」などの各コースに加え、「ジュニアコース」として位置づけました。今までも道民カレッジは、小中学生を対象にしていないということではありませんでしたが、一般向けの講座には、小中学生はなかなか参加できないことから、新たに制度設計しました。
- 「ジュニアコース」は、高校生は対象となるのですか。
- 高校生については、一般として位置づけています。

- 小中学生には、どのような講座にニーズがあるか把握していますか。
- 調査はしていませんが、体験活動が中心になるかと思います。その他、道立青少年体験活動で実施している外国語の活動等は大変好評です。
- 北海道教育大学では、各キャンパスで様々な取組を行っているので、新年度に向けて、道民カレッジの連携についても学内で働きかけを行っていきたい。

② 「ほっかいどう学」大学インターネット講座について

- 大学インターネット講座への参加は、1大学1講座ですか。5キャンパスあるのでキャンパスごとにやりたいと考えていますが、5講座分の負担金を支出すると参加できるのでしょうか。
- 予算上の問題もあるのでこの場ではお答えできません。
- 2月に実行委員会並びに制作委員会がありますので、そこで大学側として意見をあげていただきたいと思います。